

第 38 回医療薬学公開シンポジウム報告

第 38 回医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 前田 頼伸

日本医療薬学会第 38 回医療薬学公開シンポジウムを、仁徳天皇陵のある堺の地で、開催させていただきました。主催は日本医療薬学会、後援は大阪府病院薬剤師会、堺薬剤師会、全国労災病院近畿中国四国ブロックです。北海道から沖縄まで各地域からの参加者も散見され 386 名に達する盛会となりました。

平成 22 年度の関西地区での第 38 回公開シンポジウムでは、テーマを「Pharmaceutical Care がもたらす医療の質的向上と経済効果」とさせていただきました。

今日、薬剤師の臨床業務は、服薬指導にとどまらず、副作用・相互作用モニタリング、処方設計並びに処方提案などに広がりを見せております。チーム医療の中で薬剤師による Pharmaceutical care が定着する中、この経済効果に関する研究報告は必ずしも多くない現状です。

今回の公開シンポジウムは、基調講演として日本病院薬剤師会学術委員第 5 小委員会で薬剤経済学分野の委員長を務めておられる浜松医科大学医学部附属病院薬剤部長の川上純一教授に「薬剤部マネジメントとファーマシューティカルケアの薬剤経済」について、広い視野と経験を基にお話いただきました。次にシンポジストとして、病院の薬剤部で活躍されている、舞鶴共済病院薬剤部長・楠本正明先生、兵庫医科大学病院薬剤部長・木村健先生、大阪労災病院・寺田智香子先生、にそれぞれの立場からテーマに則してお話いただきました。また、大学の立場から大阪薬科大学準教授・恩田光子先生に医療の質と経済性について述べていただきました。座長は、日本病院薬剤師会副会長であり広島大学病院薬剤部長の木平健治教授と、大阪府病院薬剤師会会長の八尾市民病院薬局長の但馬重俊先生に、本シンポジウムの取りまとめと今後の方向性の舵取りをしていただきました。医療薬学の中で、「医療の質」と「経済学」という分野は、本邦では未開拓の分野と言っても過言ではありません。薬剤師が医療現場において薬学的介入をすることによって、「医療の質」と「経済性」をめぐって、社会的、学術的にどう貢献していく事ができるか、今後の課題と問題点について活発に討論することができました。本シンポジウムの内容が今後の業務に反映され、Pharmaceutical care が社会的に認知されることを願っております。

最後に、運営にあたりご理解とご協力とご支援をいただいた多数の皆様方に厚く御礼申し上げます。

日本医療薬学会第38回医療薬学公開シンポジウム概要

Pharmaceutical Care がもたらす医療の質的向上と経済効果

日時 平成22年9月11日(土) 13:00~16:45
場所 サンスクエア堺 サンスクエアホール (JR堺市駅より徒歩1分、隣に市営駐車場)
〒590-0014 堺市堺区田出井町2-1 TEL 072-222-3561
主催 日本医療薬学会
後援 大阪府病院薬剤師会、
堺市薬剤師会、全国労災病院近畿中国四国ブロック
対象 病院薬剤師・保険薬局薬剤師・薬学生・大学教員
参加費 500円

13:00 開会の辞 実行委員長 前田頼伸
13:05 基調講演 座長 大阪労災病院 薬剤部長 前田頼伸
「薬剤部マネジメントとファーマシューティカルケアの薬剤経済」
浜松医科大学 教授 薬剤部長 川上純一
14:15 シンポジウム(発表25分、討論5分)
座長 広島大学 教授 薬剤部長、日本病院薬剤師会副会長 木平健治
八尾市立病院 薬剤部長、大阪府病院薬剤師会会長 但馬重俊
1. 「副作用の一元管理が医療の質を向上させる」
大阪労災病院 薬剤部 寺田智香子
2. 「薬局におけるMUE(医薬品使用評価)について考える」
大阪薬科大学 准教授 恩田光子
3. 「病棟活動におけるファーマシューティカルケアと薬物治療評価」
兵庫医科大学病院 薬剤部長 木村 健
4. 「薬剤管理指導の現状と経済性」
舞鶴共済病院 薬剤部長 楠本正明
16:15 総合討論
16:40 閉会の辞 大阪府病院薬剤師会15支部長 近畿大学病院 薬局長 森山健三

- ・ 参加者数 386名
- ・ 日本医療薬学会認定薬剤師資格更新研修単位登録申請者 385名
- ・ 日本薬剤師研修センター集合研修認定シール(2単位)受領者 351名
- ・ 大阪府病院薬剤師会研修単位(1.75単位)受領者 363名

